私の趣味「城跡巡り」

帯広市医師会
北斗病院
松本　健一（まつもと　けんいち）

御無沙汰しております。５年程前の2021年に若手医師コーナー「アクションズ」に投稿させていただきました北斗病院放射線治療科の松本健一です。投稿後、無事放射線治療専門医試験に合格して晴れて治療専門医として帯広で勤務しております。

今回再度原稿の執筆依頼を受けまして何を書くか迷いましたが、私の趣味の城跡巡りについて書こうと思います。

元々高校時代に日本史を選択して勉強しており、日本史に対して興味を持っていました。

本格的に城跡巡りにはまり始めたきっかけは４年程前の新婚旅行で山口県萩市にある萩城跡を訪問したことでした。この時に城の構造（縄張り）や石垣の形状や配置、堀の形状、歴史的意味等を現地ガイドの方から聞いて興味を持ち、城跡巡りにはまりました。また日本100名城スタンプや御城印を集めることにも楽しみを覚えて城跡訪問時には収集しています。

今回私が訪問した城跡の中で特に印象に残った城跡を二つ紹介します。

一つ目は山梨県韮崎市にある新府城跡です。この城跡は武田勝頼によって武田氏滅亡直前に築かれた城で縄張りを担当したのは有名な真田昌幸です。

NHK大河ドラマ真田丸を見ていた方ならピンとくると思います。2023年５月下旬に訪問しました。

七里岩の断崖絶壁上に築城されており、突貫工事で築いたのにも関わらず土塁、曲輪、空堀等を複雑かつ機能的に配置した構造は見る人を飽きさせません。最終的には焼き払われましたが、武田流築城術の粋を詰め込んだ新府城、もし機会があればぜひ訪れてみてください。

続いて二つ目は滋賀県近江八幡市安土町にある安土城跡です。織田信長が最後に築いた城としてあまりにも有名です。2025年９月中旬に訪問しました。

この城跡の特徴として途中まで一直線に伸びる太い大手道で、大手道に沿って段々の石垣上に羽柴秀吉や前田利家の屋敷跡と表示された曲輪が配置されています。

先程紹介した新府城が防衛を意識した城に対して安土城は防衛よりも天下人としての権威付けや象徴付けの意味合いが強いものだと思います。また天守台跡の礎石が特徴的であり、織田信長公のお墓も近くにあるので織田信長ファンの方や日本史好きの方はぜひ一度訪問されることをお勧めします。歴史の息吹を間近に感じられます。

以上二つの城跡を紹介しました。興味がある方はぜひ訪問してみて下さい。一点程、注意事項です。どちらの城も険しい山城です。動きやすい服装と靴で訪問されることを強くお勧めします。

還暦過ぎてからの医療DX

苫小牧市医師会
にっしん耳鼻咽喉科クリニック
安達　俊秀（あだち　としひで）

昨今、オンライン資格確認や電子処方箋など医療の世界にもDX化が求められるようになってきている。

小生は、還暦を過ぎた小さな診療所をやっている耳鼻咽喉科医だが、ITやらDXやら、その言葉の意味も充分に理解できているとは言い難い年代である。オンライン資格確認の時は、業者に丸投げしてやってもらった。スマホで読み取る装置を増設する時は、数千円の補助金をもらうのに苦労した。

そして数年後に電子処方箋が義務化されるかもしれないとの報道。数年先に引退するにはちょっと早いかと思い、重い腰を上げて電子処方箋に対応するため電子カルテの導入に踏み切った。

エムスリーから電子カルテの案内が来ていたので、まずはそれに申し込んでみた。３社ほど紹介されたが、レセコンがORCAを使用しているためデータ移行がスムーズなエムスリーデジカルにすぐ決めた。機器が搬入され、インストラクターに２回ほど講習を受け、２～３週間は紙カルテを使いながら自分で練習。そして本番。１日だけインストラクターが同伴してくれ、時間は余計にかかったが、特に大きなトラブルもなく診療を終えた。それから患者さんが一回りするまでは紙カルテよりは診察時間を要したが、今では紙カルテと変わらないスピードで診療できている。

電子カルテ導入によるメリットも。まず事務職員の仕事が大幅に削減。今まで紙カルテに書いた処方や処置・検査を事務でレセコン上に入力していたが、今は確認作業のみ。看護師も採血伝票を書く作業がなくなり、印刷されたラベルを採血管に貼るだけ。しかも採血の結果は、電子カルテに表示されるので紙カルテに貼る作業がなくなった。

そしてなんといっても紙が削減できること。紙が減るというのはここまで心がすっきりするものだとは思わなかった。

さらに紙を減らすべく、現在は画像のファイリングシステムの導入を検討中。ファイリングシステムは、Ｘ線、内視鏡、オージオ、エコーなどの情報をサーバーに保存し、１つのモニターに表示できるシステム。紙カルテに保存するものはほぼなくなるため、これで電子化が完了。導入される日が楽しみである。